

なのほな だよ

NANOHANA
DAYORI

老健ちば

No. **91**

April 2018



ハートケアセンター「お母の部屋」の桜餅〜

INDEX

1
2
トレンドTOPIX 潮流
（ニュースウォッチ）

介護施設での

虐待件数、過去最高

厚労省調査

介護3施設では

身体的虐待・介護放棄

フォーカス「老健ちば」

管理者研修会報告

3
4
〈特集〉

平成29年度 研究事例発表大会 最優秀賞
介護老人保健施設 ハートケア流山

5
6
〈研修会報告〉

自由気ままに

ペーパーブログ

調理レク

介護老人保健施設

メイケアー君津

事務 清水 猛



7
〈なのほなスマイル〉施設の笑顔紹介

● ほうゆうの杜

● 透光苑

〈老健ちばカレンダー〉

〈編集後記〉

<http://www.chiba-roken.jp/>

平成30年4月19日 発行

● 発行者/一般社団法人 千葉県老人保健施設協会 ● 編集者/広報委員会

● 〒262-0042 千葉県千葉市花見川区花島町149-1 TEL:043-259-8435 FAX:043-259-8436

トレンド TOPIX 潮流

ちょうりゅう

ニ
ユ
ー
ス
ウ
オ
ツ
チ

介護施設での虐待件数、過去最高 厚労省調査介護3施設では身体的虐待・介護放棄

厚生労働省は3月9日、高齢者虐待防止法に基づく2016年度の虐待件数を公表した。介護施設の職員による虐待として相談・通報があったのは前年度5.1%増の1723件、虐待判断件数は同10.8%増の452件いずれも過去最高。増加要因について厚労省は①施設利用者の増加②市町村の体制整備に伴う掘り起こし効果③施設で虐待報道を受けた意識の高まりを挙げている。

16年度中に市町村が相談や通報を受け、虐待と認定した件数を集計した。虐待を受けた高齢者数は870人。うち女性が614人で70%を占め80歳以上が44%を占めた。虐待による死亡事故は0件だった。

虐待があつた施設は特養が124件(27.4%)で最も多く、有料老人ホーム120件(26.5%)、グループホーム66件(14.6%)、老健52件(11.5%)。前年度と同傾向だ。

一方、虐待の深刻度高い施設種別を見ると、前年度は居室系が高かったが16年度はグループホームや小規模多機能型居室介護が他の種別より高い傾向

にあつた。

いずれの施設種別でも「身体的虐待」が最も多いが、介護保険3施設では「介護等放棄」(43.1%)の割合が他の施設種別より高く、グループホーム・小規模多機能型・居室系は「心理的虐待」がそれぞれ34.5%、36.8%と高い傾向だった。「経済的虐待」はその他人所系で比較的高かった。

全体的に、認知症の程度や要介護度、寝たきり度が高いほど、「身体的虐待」の割合が高くなっているが、逆に程度が軽いほど「心理的虐待」の割合が高い傾向にあつた。

虐待のあつた452件の施設・事業所のうち、4分の1が過去に何らかの指導を受けていたことも分かった。

課題は調査対象だ。同調査は、有料老人ホームの定義に該当しないサービス付き高齢者向け住宅は対象としていない。近年、サ高住の職員による虐待事例が増えていることから、実態の把握の必要性が高まっている。

市町村の回答によると虐待の発生要因は「教育・知識・介護技術等に関する問題」が289件(66.9%)で

2016年度の施設・事業所別の虐待件数

特養ホーム	124件	27.4%
有料老人ホーム	120件	26.5%
●住宅型	60件	13.3%
●介護付き	60件	13.3%
認知症GH	66件	14.6%
老健	52件	11.5%
通所介護	33件	11.5%
訪問介護	23件	5.1%
小規模多機能型	11件	2.4%
その他(未届けホーム含む)	10件	2.2%
合計	452件	100%

最も多く、「職員のストレスや感情のコントロールの問題」が104件(24.1%)、「倫理観や理念の欠如」が54件(12.5%)、「虐待を行った職員の性格や資質の問題」(12.0%)の順。「人員不足や人員配置の問題や関連する多忙さ」を挙げたのは38件(8.8%)だった。

(シルバー新報2018年3月16日記事抜粋)

TOPIX

フォーカス 老健 ちば

管理者研修会報告

平成30年1月22日、京葉銀行文化プラザにて31施設40名参加により管理者研修会が開催されました。

今回は4名の講師をお招きして、講義をいただける予定でしたが、雪の影響もあり3名から講義をいただきました。

まずは、「介護老人保健施設をめぐる今後の動向について」をテーマに千葉県健康福祉部保健医療担当部長岡田就将氏より千葉県におけ

る高齢人口の推移、千葉県内の老健の現状、介護サービスについての見込み量等の概要説明を受けました。

人口減少の中で高齢化社会を支えていくうえで、介護老人保健施設の役割への期待はさらに高まるとまとめをいただきました。

続いて、「平成30年度医療介護報酬同時改定を踏まえた施設経営について」公益社団法人全国老人保健施設協会理事介護老人保健施設やすらぎ理事長小川勝氏よりお話をいただきました。

平成30年改定を迎えて、今後の経営をどう考えていくべきか、見えてきた報酬改定からの重要なポイントや対策の説明をいただきました。

報酬改定に適切な対応を実施していくことが、今後の経営に重要だと再認識をさせていただきました。

最後に、「外国人介護人材の受け入れに係る施設運営について」大阪老健協会の活動を踏まえて介護老人保健施設つるまち理事長光山誠氏より活動を通した、踏み込んだ話を聞かせていただきました。

介護人材不足による外国人介護職の受け入れ実績、EPA、技能実習制度、介護留学生の制度の違いを通してのメリット・デメリットの講演をいただきました。人材不足が課題になる中で、これからの考えるうえでのヒントを感じられる内容でした。

それぞれの講義が、今後の老健の取り組みにとっても重要なことであり、今後の施設経営の在り方を見つめなおす講義でありました。

足元の悪い中での「管理者研修会」ではありましたが、参加者は真剣に聞き入っており、会場は寒さに負けない熱気に包まれていました。





平成29年度 研究事例発表大会



介護老人保健施設

ハートケア流山

重症度利用者の在宅復帰に向けた
在宅復帰支援と在宅支援の統合について

今回広報委員会は、平成29年度研究事例発表会において最優秀賞を受賞されたハートケア流山に「重症度利用者の在宅復帰に向けた在宅復帰支援と在宅支援の統合について」取材と施設見学に伺いました。当日は、鈴木事務長、安原介護看護部長、赤澤介護係長、中島介護主任、嶋田施設ケアマネジャー、雨澤訪問介護所長にお話を伺いましたのでご紹介させていただきます。

施設の理念

地域の人々に信頼される施設をめざします

運営方針

- 人権を尊重し、生活の向上に努めます
- 自立を支援し、家庭復帰をめざします
- 快適な生活を支援します
- 家庭や地域との結びつきを大切にします
- 職員としての自覚を持ち、知識・技術の向上に努めます

今回の発表テーマを決めた動機は？

ハートケア流山は平成26年12月より、在宅復帰機能強化加算を取得しています。しかし、施設において利用者様の重症度に伴ってADLの向上が在宅復帰に繋がるといふ通例のパターンが機能しないケースが増えてきました。

これまでの在宅復帰支援においては、退所日の1ヶ月前から多職種によるカンファレンスを開催し、居宅介護支援事業所をはじめとした在宅チームでADLの状況や医療情報等を提供してきましたが、重症度の利用者様はサービスの量が増加することが見込まれました。そこで、サービスの量と頻度を明確にし、効率的な介護の提案がなければ、支給限度額の観点から在宅生活の維持が

できないと考
え、施設サービ
スと在宅サー
ビスで統合を
シェアして在
宅復帰支援に
繋いだケース
を今回のテー
マに選びまし
た。

取材のイン
タビューでは重症度の高い方の在宅復帰支援は施設の介護職員の存在がかなり大きいと伺いました。普段施設の介護職員は、施設の中での食事や入浴、排泄などを携わっており、利用者様の在宅生活のイメージが湧かないことがあります。そこで、訪問介護の職員と連携をして在宅生活に同行して体験を受けているそうです。

実際に訪問介護を体験すると職員のスキルアップに繋がりが、地域生活を知りよい経験になるそうです。



発表の事例

対象者

Y様 81歳 女性 介護度4

- オムツ使用の全介助で1日7回の排泄介助を要していた。
- 支給限度額の兼ね合いで、在宅生活に適應することが難しい。
- そこで1日4回の頻度に落とし、皮膚トラブル等のデメリットがないよう評価を行い支給限度額内での在宅サービスに繋がった。

主な取り組み

- ① 退所日の1ヶ月前に退所前カンファレンスを開催して、サービスが必要になる具体的な生活行為の選定をする。
- ② 訪問介護員が実際に介護を実践して、具体的なサービス時間を設定する。
- ③ 入所サービスでの頻度を勘案して、居宅ケアマネジャーが暫定の提供票を作成する。
- ④ 支給限度額を超過してしまう場合は、入所の介護員と訪問介護員が協議してサービスの頻度を削減する。
- ⑤ 削減された頻度により、利用者様にデメリットがないかを入所スタッフが評価をする。
- ⑥ サービスの内容・時間・頻度を居宅ケアマネジャーに情報提供をする。
- ⑦ 居宅ケアマネジャーが改めて暫定の提供票を作成して支給限度額の範囲内であるかを確認する。



わかったこと

今回の研究事例発表でわかったことは、今まで在宅復帰支援は、主に身体機能やADL、医療情報などが考えられていたが、利用者様の重度化が進むにつれ想定される在宅サービスの量が支給限度額の関係で経済的な問題が生じた。

退所日の1ヶ月前から入所サービス側と在宅サービス側とお互いの強みを持った在宅チームを作り、利用者の在宅復帰支援に繋がった。

最後に伝えたいこと

雨澤訪問介護所長

在宅介護を知らない私たちが、どうしてもそこに向かう在宅復帰支援ができるのか？その問いに応えるために、訪問介護事業所の開設から私たちの挑戦は始まりました。在宅介護の実情を知ることと、私たちは新たな角度から老人保健施設を見つめ直す事になりました。それは医療連携や生活機能向上に向けた自立支援の強化など、介護職の資質に関わる社会的ニーズは、老人保健施設の介護職が必然的に身に付けるスキルであり、在宅復帰支援と在宅支援を総合的にアプローチする介護職の育成は、地域の安

全性を高める人財インフラになり得ると確信しました。挑戦という言葉に奮い立つ介護職を待っています。新たな地域モデルを千葉県から波及させましょう。



今回、取材にご協力をいただいたハートケア流山の皆様、本当にありがとうございました。ありがとうございました。

重症度の方の在宅復帰支援はとても大変です。施設側のスタッフと在宅側のスタッフとが連携し在宅復帰支援に繋がった発表でした。

「在宅チーム」とてもすてきな響きです。最優秀賞おめでとうございました。



ハートケア流山

住所 流山市小屋146-1
電話 04-7178-2200
開設 平成12年9月20日
定員 入所132名
(一般92床、認知症専門棟40床)
通所 50名



研・修・会・報・告

平成29年度 マスター・技術研修会

平成30年2月1日にマスター・技術研修会が千葉市で開催されました。この研修会は全国老人保健施設協会（以下「全老健」という。）が主催し、千葉県老人保健施設協会（以下「県老健」という。）の共催で開催されました。今回は県老健で研修委員を務める、フェルマータ船橋事務長代理塩原貴子氏の寄稿によりご報告します。



県老健の研修委員、事務局の担当者で何度か集まり、どんなテーマがいいのか、何を伝えたいかを過去の資料など参考にしながら話し合う行程は、私にとっても大変貴重でした。有意義な研修になるようにみんなでテーマを決めていきました。

また、平成28年度はビギナー研修を全老健と共催で企画しましたが、平成29年



フェルマータ船橋における実践報告として私自身も講義する時間を頂戴しました。

当日は、北は青森、南は鹿児島と全国各地から多くの参加があり、グループワークや各施設の情報交換など活発な意見も出され、とても有意義な時間となりました。私自身も研修委員という立場での参加でしたが、他都府県の参加者とお話しする機会も設けられ、色々情報交換ができた大変楽しい時間でした。

4月からの報酬改正に向け各施設で情報収集や運営方針などたくさん話されていた時期に合う内容であったと思います。今回の研修が何かお役にたっていたら幸いです。

今後とも県老健研修委員も頑張りたいと思います。

研修委員 塩原貴子（フェルマータ船橋）

支援相談員部会

平成29年度支援相談員部会
副部会長 三代川未央（ダンディライオン）

平成30年3月7日（水）千葉県教育会館にて「平成29年度第2回支援相談員部会」が開催されました。

株式会社スターコンサルティンググループ 経営コンサルタント 伊谷俊宜氏を講師にお迎えし「入所稼働率を上げる方法」をテーマとして講義が行われました。

近年、サービス付き高齢者向け住宅などが増加し、益々競争が激しくなる中で、必要とされる施設作りを行う事、まずは施設Ⅱ身内で社内の「武器（売り）」は何かを明確にして皆でシェアする、そしてシェアした



事を外部へ伝える必要性を学ぶ事ができました。稼働率向上に

対し意識を持ち、今置かれている状況の中でどれだけの支援やサービス提供が出来るのか、地域のニーズにあっ

た取り組みを行っているのかを改め見直し、特化した施設を作るべく、今後の業務に活かしていきたいと思えます。

医療・介護施設での実績多数！

話題の次亜塩素酸で空間除菌！

細菌・ウイルス対策に！



第三世代 次亜塩素酸ナトリウム単一製剤

Medical Intelligence
IWABUCHI
岩渕薬品株式会社

〒284-0033 四街道市慶の台1丁目5番地

お問合せはこちらまで

TEL:047-374-3009

(8:30~17:30)

販売部門直通



調理レク

介護老人保健施設 **メデイケアー君津** 事務 **清水 猛**

当施設にて定期的に行われている調理レクについて、触れてみたいと思います。

調理：「私自身はめったに料理を致しません。たま〜に作る物がそう、縁日や催し物等で定番で大人気とも言える「焼きそば」です。という事で、調理レクの内容は焼きそばに決定！という程大げさな事ではありませんが、焼きそばです。利用者の方々と一緒に作っていく訳ですが（あ、私は離れた場所から見学です）、まずは材料を切っていく作業。

「では、始めに材料を切っていくま〜す」との職員の声に、「もう何年も包丁なんてもってないからできないよ〜」と消極的でしたが、いざやってみると…とてもリズミカルに人參やピーマンが刻まれてゆき、「だんだん思い出してきたよ。」と嬉しそうな声。また、包丁が使えないかたに

は麺をほぐしてもらったり、炒めてもらったりと、できる作業で参加してもらいました。「なんだか昔を思い出すねえ。」と楽しそう。

さあ、いよいよソースの投入です。皆さん調理をしながら各家庭での隠し味の話で盛り上がっていました。「ちなみに私はビールを入れるのが好きです。（笑）」…

さて、焼きそばが出来上がりました。皆さん美味しそうに食べられています。「こんな出来たてを食べるのは久しぶり!!」
○さんの切った野菜ちようどいいね!
「美味しいから、おかわり!!」と多くの笑顔が見られました（こちらも美味しく出来上がった卵スープを添えて…）。

私は直接介護やレクリエーション等に関わる事はありませんが、利用者の方々の笑顔が見られるのは嬉しく思います。こちらも癒される感じがして何だか良いですよ。



何だか良いですよ。



Information

支援相談員部会・研修を終えて



平成29年度
支援相談員部会長
並木孝好

平成29年度の支援相談員部会は、千葉ブロックが運営委員を担当しました。各施設のご理解もあり多くの支援相談員に参加していただきました。

在宅復帰を支援する要(かなめ)である支援相談員が他施設の成功事例を共有することで益々、利用者様の在宅介護への取り組みが促進されたことと思います。

研修開催にあたって、老人保健施設に求められる在宅復帰に必要な要素は何か。入所者本人やご家族が支援相談員に何を求めているのかなど担当委員に複数回話し合い今回の研修内容を決定しました。研修担当者同士の絆がとて深まるいい機会になりました。

支援相談員は、各施設1名〜2名の施設が多く業務内容も多岐にわたります。年に3回支援相談員が集まる機会をいただき、サポートいただいたちは老健協会の方々にも大変感謝しております。

福祉車両のプロフェッショナルにお任せください。



URL: <http://www.ingenious.co.jp>
TEL. 048-257-2948

～ 営業内容 ～

- ▶ 福祉車両の販売・リース
- ▶ 架装部のメンテナンス
- ▶ 車検・点検・修理・板金塗装
- ▶ 各種損害保険
- ▶ 福祉車両の代車・レンタカー



福祉車両のどんなことでも

インジニアス株式会社

〒332-0031 埼玉県川口市青木 3-12-11

なののはな スマイル

明るく! 元気!
施設の笑顔をご紹介します!



■ ほうゆうの杜

医療法人社団鳳雄会の老健2つ目の施設として平成25年12月に開設し、5年目を迎えました。「笑顔」と「豊かな心」をモットーに地域に愛される施設を目指し、頑張っております。

住 所：花見川区積橋町1105
電 話：043-215-0330
開設日：平成25年12月1日
入 所：80床
通 所：30名

全職員が一丸となって、ご利用者様のご希望に応えられるように、笑顔を持って日々頑張っています。

●ほうゆうの杜
理学療法士 町田秀治



■ 透光苑

透光苑は平成9年9月より開設、今年で22年目を迎えることができました。開設当初より、やすらぎと思いやりのある介護を目指し、希望と生き甲斐のある自立した療養生活を応援していきます。また、平成29年よりEPA制度を活用し、優れた人材の確保を行うことで支援の幅を広げる活動も行っております。

住 所：成田市桜田1137
電 話：0476-73-8611
開設日：平成9年9月
入 所：80名
通 所：40名



「シンチャオ!」(こんにちは!)
ベトナムの文化を利用者様へご紹介できればと思います。いつも笑顔で頑張ります。

●透光苑
介護職員
(左から)
トゥイー
ガム
ホアイ
カイ



老健ちばカレンダー

4月 27日(金) ●平成30年度介護報酬改定説明会及びリスクマネジメント研修会 <千葉市生涯学習センター ホール>

●編集後記

- 報酬改定の春。私が勤務する施設では、サテライト型に特に厳しい改定です。国が介護老人保健施設に期待している事、利用を希望している方が老人保健施設に期待している事。考えさせられます。皆様の施設ではどの様な取り組みをしたのでしょうか。とても気になります。国は今後の社会保障をどんな方向へ導こうとしているのか。事業所側が見極めて対応する力が必要なのではないでしょうか。社会に訴える取り組みも必要ですね(*u_u*) > (若林)
- 今回、ハートケア流山様の取材に行きました。ハートケア流山の職員さんは利用者様のケアを純粋に考え、更に、施設だけに留まらず地域の介護に関わる人材育成も考えている方々でした。ハートケア流山の職員さんは率先した行動力が数人では無く、他職種協働で一丸となり、和気藹々とした職員さんの目がキラキラと輝いていました(´。´)。 (福田)
- 介護保険改正に伴い、ますます厳しい状況となりました。当施設も、在宅復帰率に回転率、リハ人数に相談員数etc...クリアしなければならない問題が山積です。そんな中、先日広島島の娘のところに行ってきました。5歳と3歳のかわいい孫達に癒されてまいりました。このまま隠居して、広島でのんびり暮らそうか...なんてちょっと弱気な気分の日頃です(´。c。´) (坂本)
- 平成30年度改定に向け、施設内ではそれぞれの部署で取り組みについて検討を重ねてまいりました。今まで準備をしてきたことが少しずつでも実現できるよう、また足りないことはみんなでも補いながら、今後に向けた体制作りを進めていきたいですo(´-´)o(佐々木)

- 3月に友人の結婚式があり、旧友との親交を温めてきました。自分が家庭を持つてからはなかなか友人と会う機会もなく、15年ぶりに会った友人もいましたが昔に戻った様な時を過ごすことができました。久々に会った友人たちは(自分も含めて)責任のある立場になり、多方面で活躍していました。次に会うのはいつかわからないけどみんな元気でいてほしいと思います(o*~*)o(河野)
- 新年度になりました。皆さんの施設には新しいスタッフが入職されましたか?私は年度末から介護報酬の改定やケアマネの更新研修に追われておりました。ふと外を見ると相変わらずヤギの母娘は他人事のように顔を食べています。これからは草が伸びてくるのでしっかり働いてもらいます^ (^) (神作)
- 改定介護報酬の下での施設運営が始まりました。独立型80床地域加算無しの当施設にとっては大変厳しいもので、今までの考え方を180度転換して、今後は在宅復帰へ向けての取り組みをしていかなければなりません。そして、老人保健施設としての役割を果たせるよう頑張っていきたいと思っておりますが... (ノ。ノ) (斎藤)

